

# 恵泉の花卉装飾の歴史をたどる II

## 創設期の頃の英国の花卉装飾

本多 洋子(園芸文化研究所)

前報<sup>1</sup>で、河井にとって花を愛でるということは、見た目の美しさだけを求めるのではなく、また、花を単なる観賞の対象に止めるのではなく、人間の心までにもかかわってくる、いわば心の糧とする術(すべ)を学ぶものにとらえ、それまで日本に無かった花卉装飾という科目が教育の中に必要であると考え、花が蕾をつけて育つ過程をじっくり見ていないと表現できないもの、神が与えた自然の美しさを学ぶことを恵泉の花卉装飾に求めたと述べた。

今回、国外研修の機会を与えられ、その研修地にイギリスを選んだ理由の一つはケント州のスワンレーにあった女子園芸大学について調べたいと思ったからである。河井は新しい学校を創設するにあたって海外の視察を行ったが、その中にこの女子の園芸大学があった。「わたしのランターン」<sup>2</sup>の中で河井は特にこの学校の様子を紹介している。

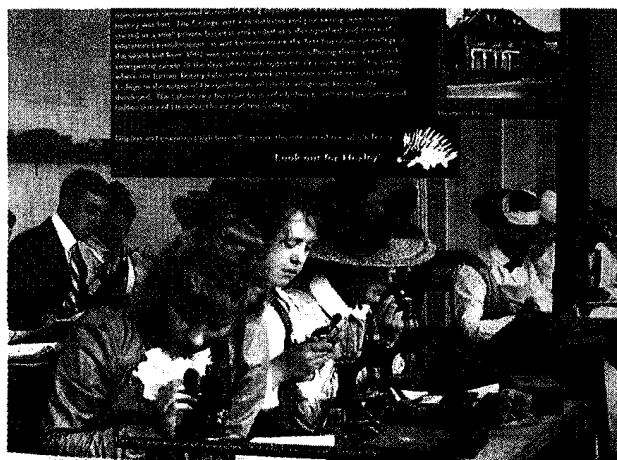
ここで私はほんとうの英国風庭園というものを見た。花と灌木を小道に沿って群がり植えたり、ロックガーデンにちりばめたり、石垣の処々のあしらいにしたりしてある。どこもかしこも見事な色彩で、わたしがこれまで見たどんな絵よりもすばらしいものであった。中略 学生たちが牛や雛鳥や蜜蜂を非常に上手に世話をし、また実験室では昆虫研究や肥料研究に熱中しているのを見た。科学的研究と実習とが並行して行われていた。婦人たちは作業のときは半ズボンをはいていたが、晚餐

には美しい服を着て出てきた。そして食後は客間に座って、色々な問題についての新聞や雑誌の記事を校長が朗読するのを聞くのだった。(わたしのランタンより)

恵泉女学園の教育理念がどのように生まれたか、どのように発展してきたかについて歴史的背景を追い、創立者河井道が昭和初期というあの時代に学校を創った理由、河井が目指した女性教育、歴史が与えた影響、河井がどのように教育理念の具現化を図ったかなどを検証することによって、恵泉の花弁装飾が本当に目指さなければならない形が見えてくるのではないかと思ったからである。

スワンレー(Swanley)は南東イングランドのケント州に属し、温暖な気候と肥沃な土地に恵まれていた。歴史的には保養地(Health resort)であり、ビクトリア時代後期には裕福な人たちの別荘地であった。しかし1930年代にロンドンとスワンレーを結ぶ鉄道が敷かれると静かな町並みは一変し、園芸と軽工業が盛んになり、花や野菜がロンドンへ出荷され、ロンドンからは肥料などが運ばれるようになり、ロンドンへの通勤者の居住地ともなった。<sup>3 4 5</sup>

「Swanley Horticultural College」は、1889年6月Arthur Harper Bondが個人として創立した最初の私立男子園芸大学「The Horticultural College and Produce Company」として始められた。しかし、経営はうまくいかず、「Agricultural Department of The Privy Council」と「Kent County Council」の援助によって1891年に公立の「Swanley Horticultural College」として新しくスタートした。<sup>3</sup>



共学の頃の Swanley Horticultural College

1890年2人の女性の要請によりケント州議会はこの大学に女性の参加を認め、男性のみの大学という概念は変わった。

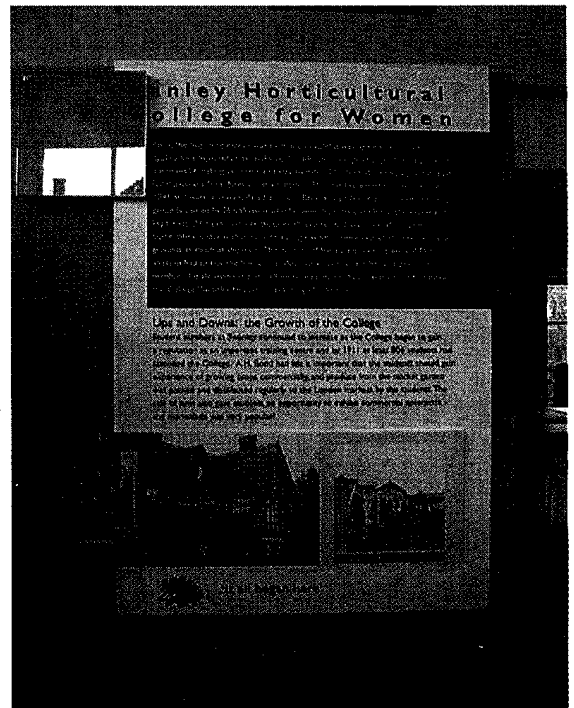
1891年6月5人の若い女性がワトソン夫人(The Lady Superintendent)の下に寄宿し、最初の女子学生となった。当時は男子学生と女子学生と一緒に学ぶということは例が無く、ワトソン夫人は彼らの付き添いの役をつとめ、講義や実習の時には後ろから厳しく彼女らを見守った。女子学生の数が増えるにしたがって、3つの家と大学としての建物を持つようになった。

大学は着実に成長し、1899年には学生の大多数が女性となり、敷地内には84人の学生が生活することになった。男子の希望者が少なくなった事と宿泊施設等の事情から、これ以上男子学生を受け入れないことを決め、1902年に女性の為の世界で最初の園芸大学「Swanley Horticultural College for Women」として再出発し、1944年まで女性に対する園芸教育の重要な中心であった。

ここでは数日間の短期のコースから3年間までの様々なコースが開かれ、河井が訪れた時には学校の先生たちの為の10日間の夏期講習が行われていたと「わたしのランターン」<sup>2</sup>には書かれている。

1903年から1916年の間、大学は「The Colonial Branch」を開き、植民地に移住する女性にイングランドの家庭生活の伝統を維持する重要な学びの場を提供し、このコースから約250人の女性が海を越えてオーストラリア、カナダ、インドと南アフリカなどに渡った。

朝は4時半から講義・実習が始まり、午後はお茶の時間の後も作業等が行われた。カリキュラムは、料理法、洗濯法、家事、応急手当、花卉園芸、果樹お



左:最初の5人の女子学生と  
Mrs. Watson

下中央:建物は寄宿であった Southbank

よび野菜の栽培技術、大工仕事、乗馬、酪農業、養鶏、養蜂とジャム加工などを含んだ。学生は化学や動物学の授業も受けた。大学では体育の日、スピーチコンテストなどが行なわれ、自分たちで育てた物のコンテストやショーを楽しみ、優秀者は表彰された。

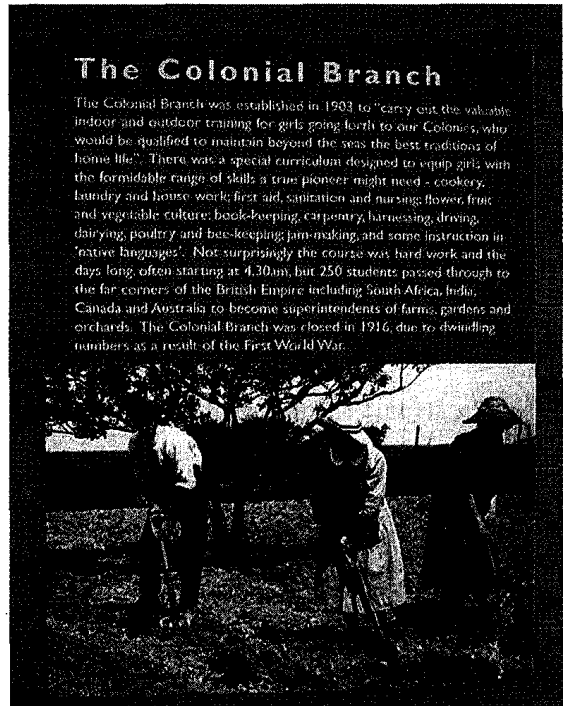
花卉装飾 (Flower Decoration) の講義・実習等があったという記録はまだ見出していないが、1924年に「The Wembley Exhibition」が開かれた時に、英国養鶏協会 (the British Poultry industry) から会場装飾 (floral decorations) を依頼され、好評を博し、Swanley Horticultural Collegeの評価を高めたとある。<sup>3</sup>

1910年から大学は「The Board of Trade rather than of Education」の監督下におかれ、1911年までに800人以上の女性を送り出した。

1914年から18年の第一次世界大戦の間は特に多くの女性に農産物生産の技



Swanley Horticultural College for Women  
—Daffodils on the Lower Terrace 1920—



The Colonial Branch



Swanley Horticultural College for Women—The Conservatory 1919—

術を伝えた。

当時、女性が職業を持って自立したいと思う時のそれは看護、教育、秘書の三つに限られていた。園芸はこれらとは異質の分野であったがSwanly Horticultural College for Womenはプロの女性庭師としての発展の機会を与えた。1896年には「The Royal Botanic Gardens, Kew」に世界で最初の3人の女性庭師を送り出した。当時、公的な場所での仕事は男性のみに限られており、その状況の中で熟練者として受け入れられたという事であるから、それだけSwanly Collegeの教育の質が高かったということであろう。<sup>36</sup>

河井が訪問したときの校長はDr. Kate Barrattであった。彼女はロンドン大学を卒業し、第一次世界大戦の時には亜麻工場の女性たちの指導者として働いていた。経営上の問題などから他の大学との統合が取り上げられる中、女性のみでの大学としての教育の重要性を州議会などに認めさせ、自立出来る女性を育てる為の教育機関としてSwanly Horticultural College for Womenを守った。Dr. Kate Barrattと河井は女性教育を目指すものとして、多くの志の一致点を見出したに違いない。

その後もHextableの農家や植物学実験室とする建物などを購入し、規模を拡大し、50周年記念日を祝った1939年に第二次世界大戦が始まった。1940年には、教職員と学生がサットンにある「The Midlands Agricultural College



Swanly Horticultural College for Women  
—The Iris Border June 1936—



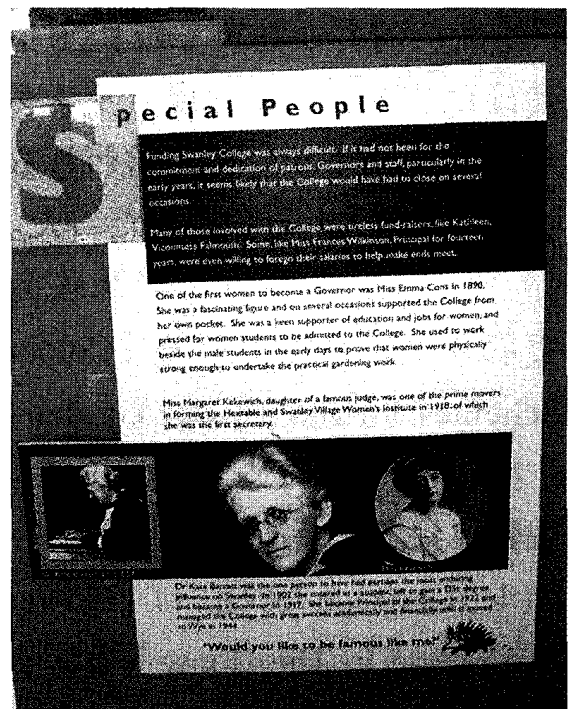
Swanly Horticultural College for Women  
—New Dairy at Swanly College 1935—

Bonnington」へ避難したが、意見の食い違いから1942年の9月スワンレーに戻った。1944年3月4つの爆弾が建物に大きな損害を与え、1人の学生が死に、そしてもう一人の学生が重傷を負い、再びサリーのRipleyに避難した。

1945年ワイ(Wye)の「The South Eastern Agricultural College」と統合し、「Swanly Horticultural College for Women」の歴史は終わった。

大学の跡地はKent州議会に売られ、Kent園芸研究所となり、農業省の監督の下で戦争から戻った人たちの為の職業訓練(園芸)の場所となった。園芸研究所は発展し、さらに1949年9月にはSittingbourneの近くのタンストール(Tunstall)に農業研究所も設立された。1958年にこれらの2つの研究所は、結合し、1960年の春にハドロー(Hadliw)に600エーカーの土地を得て移転した。その後1970年に「Hadlow College of Agriculture and Horticulture」となった。<sup>4</sup>

敷地は、分けて売り払われ、植物学実験室として使われていた建物はHeatableスクール(北西Kent教師のトレーニングセンター)などとして使われていたが、1990年にスワンレー町議会が獲得し、「Hextablu Heritage Center」としてSwanly Horticultural Collegeの資料を整理・管理する施設として活用され、続く敷地はGardenとなって残され、Swanley Parkに続いている。

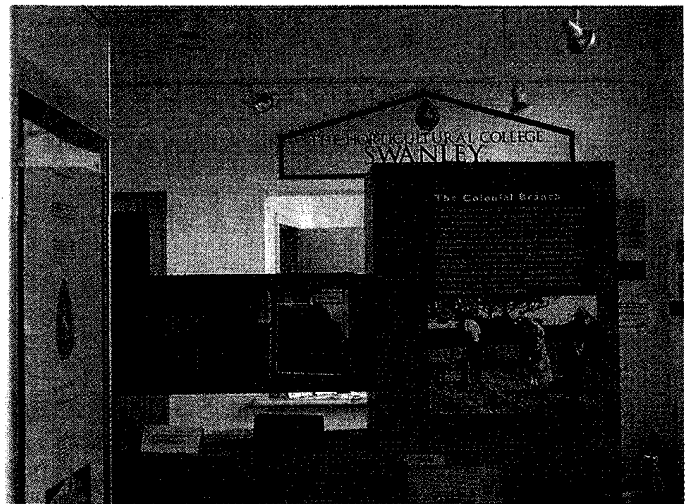


Dr. Kate Barrett : 河井先生訪問時の校長



現在は公園(一部)となっている Swanley Horticultural College for Womenの敷地

また、河井が訪英した1920年代は現代の英国式庭園（イングリッシュ・ガーデン）と言われる庭園様式が完成した頃だった。園芸文化研究所の翻訳勉強会で取り上げられている「Colour Schemes for the Flower Garden」（フラワーガーデンの色彩設計-仮題-9月出版予定）を著したジークル（Gertrude Jekyll）は「Flower



Hextable Heritage Centre : The Botany Laboratoryであった建物

Decoration In The House」という本も著している。ジークルはこの本の中で花卉装飾（Flower Decoration）は、庭師（Gardener）の仕事の一つ「Flower decoration in rooms is the branch of gardening—for it is a branch of gardening」であると述べている。<sup>1 7 8 9 10 11</sup>

貴族に雇われた庭師は、自らが育てた庭の花を領主の為に切って飾った。それは自分の手によって育てた花の存在を雇い主や訪れる客に披露する効果的な方法でもあった。またその花をより美しく見せる為に水揚げの方法なども工夫した。<sup>8 12 13</sup>

その家の婦人や令嬢が花を生けることもあった。また、使用人の中に花を生けることに熟達した者がいる場合もあった。いずれにしてもそういった人々は花を良く知り、慈しみ、自然の恵みに感謝する者たちであったろう。

ジークルの「Flower Decoration In The House」もFlower Decorationの技術的な解説書というよりも、多くは庭の手入れをするよりよい方法につながり、植物の成長についての一般的な理解を深めることが出来るように書かれている。切花を得る為にどんな植栽にしたら良いか、どのように剪定をしたら良いか、花の無い時期に花材を得る為にはどんな葉物を植えておいたら良いか、花材としてどんなものが得られるかについて、月を追って詳しく書き出している。

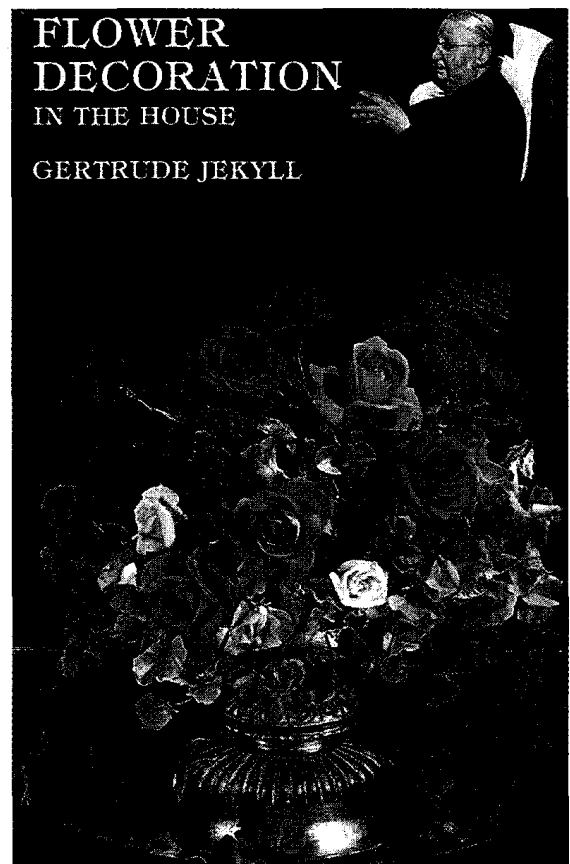
5月の第3の週はスズランの週です。それは、部屋にすばらしく甘い香りを漂わせ、何の説明も必要としません。それは、それだけでガラスにいけるのが最高です。

早生のシャクナゲ属のカニンガム ホワイトは、切ることによって本質的によりよく成長します。極薄い藤色味を帯びた白です。それは、口の広々としているボウルにそれだけか、または白や紫色のチューリップといけると良いでしょう。

白または黄色のサクラソウを最もよい状態でいけるには、5月中頃まで待たなくてはなりません。サクラソウ、青または白い磁器のボウルに良くあいます。水に完全に沈めて1~2時間置いて水揚げすることにより、彼らの力を2倍にします。(Flower Decoration In The Houseより)<sup>8</sup>

バラと紅葉の枝を使っていけたFlower Decorationには「9月と10月に、私達は残っている花を最大限に活かさなくてはいけないと感じる… 私達は自由に花を切ることを躊躇しない… 夏の美しい情景は終り、そして、あつという間に身を切るような霜が降りて、残されているもの達を損なうだろうから。」というジークルの花々を戸外 (Outdoor) で、そして室内 (Indoor) で慈しむ事に対する情熱を感じる一文が添えられている。<sup>8</sup>

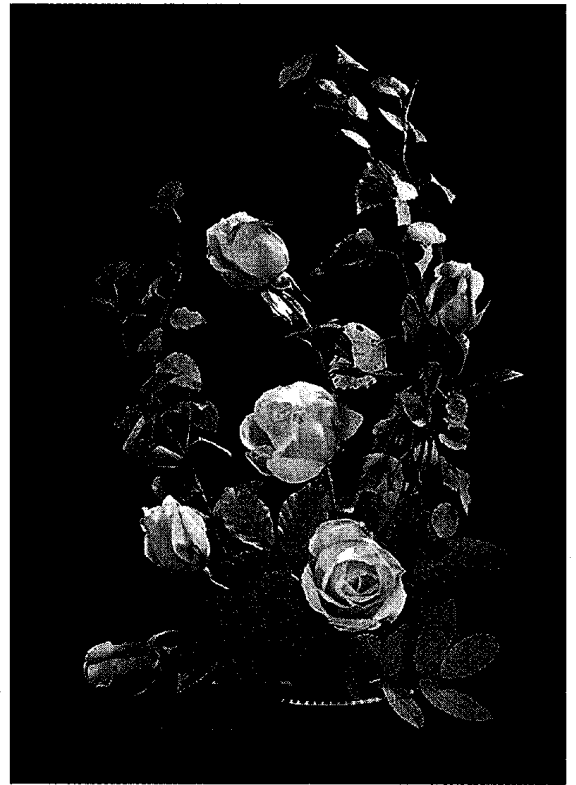
ジークルにとっては「Flower Decoration In The Garden」「Flower Decoration In The House」だったのではないだろうか。植物を使って美しい絵を書く場が庭であり<sup>7 10 11</sup>、室内であったのだ。



Flower Decoration In The House



河井はこの時代の庭園を見、室内に飾られた花を見た。それらの花の多くは生産者によって育てられた花ではなく、庭の花を切り、花を良く知るものによっていけられたFlower Decorationであったに違いない。祖父や父によって植物に対する関心が芽生え、さらにスミス(後の北星学園の創立者)<sup>1</sup>によっても植物についても多くの教えを受けた河井は、植物(自然)に目を向け、植物(自然)を受け止め、植物(自然)に畏敬の念を持つ者の技をそこに見たのではないか。牛込神楽坂の小さな校舎で学校を始めた頃から、自らが率先して植物とのかかわり方を見せた。その植物(自然)に対する教育理念・姿勢は教職員、生徒に伝えられた。



Flower Decoration In The House  
作品の一例

その大きな実りの一つは 恵泉園芸センターの研修施設—蓼科ガーデン—である。

恵泉園芸センターは花屋とフลาวースクールを持っている。そこでは切花用に生産され、規格化されたまっすぐな花を市場から仕入れて使わざるを得ない。開設当事は規模も小さく、園芸短期大学で栽培された自然の草姿をもった花を扱うことも出来たが、スクールの生徒も増え、店頭での仕事花の量も増えてくるとそれはとても適わない。そのような花を扱ってばかりいては植物本来の姿を忘れ、自然を見失うことになりかねない。店頭で売る為の花を並べるにも、花かごや花束を作るにも、自然を知らなければ人の心を動かすようなものは作れない。花をいけることを教えるにも、学ぶにも、植物本来の姿を知らなければ向上は無い。

山口美智子(元短期大学園芸学科長)、森山倭文子(元園芸センター所長)、百瀬和子(元恵泉園芸センター副所長 故人)はこのような考えから蓼科ガーデンを創ったと聞いている。蓼科ガーデンには蓼科の気候に合う植物が選ばれ、植物本来の姿が生かされるような植栽になっている。センターの職員や生徒がここで植物(自然)の姿を知り、植物本来の姿を美しいと感じる感性を養う場としての役割を果たして来た。蓼科ガーデンには河井がイギリスで見てきた人間と植物(自然)との交わりがある。<sup>9</sup>

恵泉の花卉装飾は植物から多くのものを学び、それを他者に伝えることが出来る術(すべ)を教えるものでありたいと考える。

## 参考文献

- 1 恵泉の花卉装飾へ発展の歴史をたどる I 本多 洋子(2006)園芸文化 第3号 恵泉女学園大学園芸文化研究所
- 2 わたしのランターン(1968) 河井道 恵泉女学園
- 3 *A History of Horticultural College* (1984) Elsa Morrow
- 4 *The Town of Swanley: a short history* (2004) Christoph Bull
- 5 *Wye College and its world: a centenary history* (1994) Stewart Richards Wye College Press
- 6 *They gardened in bloomers...* 1/10/1996 Woman's Weekly
- 7 *Gertrud Jekilly's Colour Schemes for the Flower Garden* (1988) Preface by Richard Bisgrove Frances Lincoln
- 8 *Flower Decoration In The House* (1982 初版1907) Gertrud Jekilly Published by the Antique Collectors' Club Ltd.
- 9 蓼科ガーデンを通して恵泉の園芸に思う 小澤 文子(2006)園芸文化 第3号 恵泉女学園大学園芸文化研究所
- 10 *Colour Schemes for the Flower Garden* 翻訳勉強会の報告 土屋 昌子(2006) 園芸文化 第3号 恵泉女学園大学園芸文化研究所

- 11 19世紀英国における園芸文化の大衆化の研究 新妻 昭夫 (2006) 園芸文化 第3号 恵泉女学園大学園芸文化研究所
- 12 *Flora Domestica : A History of British Flower Arranging 1500-1930* (2000) Mary Rose Blacker The National Trust Ltd.
- 13 *Grow Your Own Cut Flowers* (2002) Sarah Raven BBC Worldwide Ltd.